

# わが街で暮らす

諏訪市地域医療・介護連携推進センター

ライフドアすわの取り組み

74

ライフドアすわでは、医療・介護連携推進事業のひとつとして、「多職種連携研修」を年に2回開催しています。医療と介護を必要としている方が、可能な限り住み慣れた地域で安心して暮らしていくことができるように、地域包括ケアシステムにかかわる人々がお互いの役割を理解し、顔の見える関係を構築しています。

それにより困ったときには連携して声を掛け合うことができる関係を作ることが目的としています。令和6年2月22日、「お家でおいしく食べるために多職種で取り組む食支援」と題して、在宅訪問管理栄養士（以下管理栄養士）の松木裕子先生に講演いただきました。



自宅で療養する方の病状や栄養状態に適した栄養食事指導を自宅に出向いて行う管理栄養士の役割、たんぱく質をはじめとした多様な食品を摂取することの大切さがわかりました。そして栄養管理の考え方や食形態に合わせた調理法のポイント、多職種と連携しながら支援した事例について具体的な関わり等をわかりやすく教えて

諏訪市地域医療・介護連携推進センター

医療介護・認知症担当看護師

あいざわのりこ  
相沢 紀子

（諏訪赤十字病院看護係長）



多職種連携研修の様子

の強みを生かした多くの意見が出されました。

本人の意向や嗜好、病状や介護度、介護状況や食形態、食事をとる場所や雰囲気、社会的なつながりなど、医療・介護面だけではなく、その方をとりまく様々な情報を多職種で共有することの大切さもわかりました。そして本人や家族とともに多職種が前向きに考え、連携し協働できたら良いのではないかと聞いた声がかれました。栄養士からは低栄養の予防・改善のための「10食品群チェックシート」の紹介もあり、参加者からは「10食品群チェックシート」を是非活用したいとの声もありました。

参加者のアンケートからは、「在宅訪問栄養指導の取り組みがよく分かった、食の大切さを感じまた栄養について学びたい、いろいろな調理の仕方があると知り普段の業務に生かすことができそう」「多職種で話ができよかった、普段話ができない職種の方々の話が聞けて良かった」「介護支援専門員が一人でプランを立てるのは難しいが、多職種での検討でプランは広がる」などの回答が寄せられました。

コロナ禍でオンライン研修としていましたが、今回、4年ぶりに会場開催し好評でした。今後も、ライフドアすわでは、多職種が連携しより良い支援を行うことができるよう、活動していきます。

次回は4月21日掲載予定

## 研修を通して、多職種で連携する在宅支援